

埼玉佛教

平成25年1月 第193号

平成25年1月7日 発行
 No.193
 〒330-0063
 さいたま市浦和区高砂4-13-18
 財団法人 埼玉県佛教会
 電話 (048) 861-2138
 FAX (048) 864-6649
 発行人 萩野 映明
<http://saibutu.net>
 印刷所 関東図書株式会社

第34回埼玉県佛教徒大会

彩の国「希望のひびき」

「被災地復興の祈りを 彩の国から」



導師 新井弘順師 (所沢市・宝玉院・豊山)、太鼓・聲明 真言宗豊山派僧侶、太鼓 上田秀一郎氏

目次

・ 新年の挨拶	2
・ 平成24年度宗教学法人研修会 開催のおしらせ	2
・ 受章報告	3
・ 埼玉佛教文化講座案内	3
・ 法人移行状況【報告】	3
▼ 第34回埼玉県佛教徒大会 (所沢) 開催報告	4
・ 支部だより	
▼ 浦和仏教会・埼玉県佛青	10
▼ 東松山滑川仏教会	10
▼ 川越市佛教会	11
・ トピックス	
▼ 歳末助け合い募金協力	12
▼ 「埼玉同宗連」	
・ 東松山・嵐山現地学習会	12
・ 第32回埼玉県研究集会	13
▼ 関連団体・訃報	13
・ 全仏だより	14
▼ 年賀名刺広告	15
・ 訃報	16
・ 事務局日誌	16
・ 今後の予定	16
・ 編集後記	16

新年挨拶

「今を生きる」

財団法人埼玉県佛教会 会長

萩野 映明



希望に満ちた新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

さて、近頃、若い人達に「お寺とは何か」と問うと「お葬式になったらお世話になるところ」という回答が多いとのことです。檀信徒にとつて、お寺は「生きる命をいかに使ったら良いのか」という教えを与えてくれるような場所でありたいものです。釈尊は生き方を教えているのです。

当山での話ですが、紅葉が錦のように輝く時季、庭園を眺めながら、長い時間、静かに座っている女性が居りました。その方に声をかけると失恋で心には

っかりと穴が空いてしまったとのこと。私は、その女性に「突然の別れは悲しく寂しいことでしょう。しかし、人との出逢いはとても素晴らしいことです。心の置き所を変えて「出逢いがあつたからこそ、失恋することができた」という見方もできると思います。

嫌なことに直面したら、先ず、そのことに感謝の心を持つてください。次に苦しみや悲しみの中にある大切なものを見つめる努力をしてください。嫌な事へは正面から立ち向かい、悩み苦しむ、もがきなさい。すると大体の物事は成就し良い方向へと進み、光明が出て素晴らしい人間になる事ができます。逆に、嬉しい事があつた時は、次に起こる事象に対して、注意を払う心を持つことがとても大切です」というアドバイスをしました。すると、その女性は晴れやかな顔で帰途についていきました。

良寛和尚も「災難に逢う時節

は、災難に逢うが良く候。死ぬ時節には、死ぬがよき候。是は災難をのがるる妙法にて候」と説いております。

人は皆、凡夫です。凡夫であるからこそ、自分を磨くことが肝心です。そして自分の生きる道をしっかりと掴み、成し遂げることが出来れば一歩悟りに近づけるのではないのでしょうか。

人間誰しも『「ころはひとつ」心の置き方ひとつで良い生き方ができるのです。そして、物への感謝の気持ち、人への優しさを忘れてはいけません。

もちろん葬儀や法事などを執り行うことは大事なことです。訪れた方が、ひとりでも多く晴れやかな顔で帰って行けるようなお寺を目指すことも、大切なのではないのでしょうか。会員寺院各位と埼玉の仏教界が更に発展するよう、共に邁進いたしましょう。

今年もご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年の挨拶といたします。

【平成24年度 宗教法人研修会】 13:30~16:00

■暴力団撃退法（埼玉県警）暴力団の不当な要求の手口やその対応要領などについて（埼玉県警本部・60分）

■埼玉県における基本的な事務手続きについて（学事課・60分）

- 平成25年2月12日(火) さいたま会場 埼玉佛会館
- 平成25年2月14日(木) 川越会場 川越地方庁舎

第5回埼佛仏教文化講座

入場無料・要参加申込

《とき》

平成25年2月23日(土)

開場 午後1時、開会 午後1時30分

《ところ》

埼佛会館多目的ホール

[浦和区高砂4-13-18]

《講演》

『生きるよろこび』

《講師》

酒井大岳先生

(群馬県・曹洞宗長徳寺 住職)

《お申込み先》

☎048-861-2138

お申込みが定員(80名)に達し次第、受付を終了いたします。

平成二十四年

おめでとうございませう

春の叙勲 瑞寶雙光章

鈴木 英全 師

(熊谷市・歓喜院 教育功勞)

秋の叙勲 瑞寶雙光章

小島 良雄 師

(さいたま市・医王寺 行政相談功勞)

一般財団移行状況【報告】

平成24年5月24日(木)

◎平成24年度 第1回理事会／第1回評議員会を開催。

一般財団法人埼玉県佛教会 定款(案)が満場一致で承認された。

平成24年9月22日(土)

◎3SCの小田嶋様から報告：電子申請画面において【申請ボタン】を押し、申請書類の提出をしたことが報告された。

平成24年11月2日(金)

◎3SCの小田嶋様から連絡：学事課と文書課との間で書類等の確認作業の結果【事前調査等事項一覧※】が出され、それについて確認ならびに修正の依頼。

平成24年11月12日(月)

◎木村盛雄委員長から【事前調査等事項一覧】について、事

務局で3SCとの確認作業を進め、状況を見て作業部会か委員会の開催を検討しましょうとの連絡に基づき、事務局にて内容の確認作業ならびに必要な資料の作成。

平成24年11月13日(火)

◎【事前調査等事項一覧】の確認、修正を加筆したものの、【継続事業関係資料】を3SCの小田嶋様へメール送信。

平成24年11月19日(月)

◎3SCの小田嶋様から連絡：修正事項について、11月18日(日)に電子申請画面から再提出したとの報告。

※「事前調査等」とは、申請書類の記述内容が不明・不十分で審査困難な場合や申請内容の数値上の誤りなどがある場合に、行政庁が事実確認等を行うための調査のことです。事前調査等により申請書類の修正や差し替え、追加説明や追加資料などを求めること。

3SC：スリーエスコンサルティング

第34回埼玉県佛教徒大会開催報告

平成24年11月7日(水)。第34

回埼玉県佛教徒大会が所沢市民文化センター・ミュージズ「マーカーホール」を会場に、所沢市仏教会ならびに入間東部仏教会の主管（西部地区仏教会担当）で開催された。今大会テーマは『彩の国「希望のひびき」』サブテーマ「被災地復興の祈りを・彩の国から」。



大会会場の縦看板は、所沢市仏教会事務局の荒泉崇弘師（東福寺・豊山）の自筆。

前日の雨天から一転、晴天と太陽の暖かさを感じ、穏やかな天候。その気候も後押しとなり、12時30分の開場にも関わらず、1時間前から大会参加者の入場待ちの行列ができた。声明と太鼓のリハーサルが行われ、開場時間が10分遅れたが、混乱もなく順調な幕開けであった。

13時開会。まず大会実行委員長の木村盛雄副会長を導師に記

念法要を厳修、来場者と共に三帰依文、般若心経をお唱えした。萩野映明会長のあいさつに続いて、全日本仏教会事務総長の関崎幸孝師ならびに藤本正人所沢市長から来賓祝辞をいただいた。



藤本市長は「宗教の大切さを改めて痛感した」。困難に直面している人が居れば手をさしのべ、助けてあげる優しさ。そこから生まれたかけがえのない「絆」は宗教なくしては考えられない。「今こそ宗教である」と熱く語っている姿が印象的であった。

《記念講演》

記念講演の講師には、福島県円福寺住職（豊山）の石井祐聖師をお招きし、「心の復興」を演題として、ご講演いただいた。

以下、講演内容抜粋

「どんな不運に見舞われても、不幸になっちゃいけないよ」

講演は、作家の津島佑子さんのエピソードから始まった。

◆津島さんの父親は、文豪の太宰治である。作家の津島佑子さんは大震災後、新聞にエッセーを寄稿した。津島さんはそこで、30年前、8歳の息子を失ったことを明かしている。深く落ち込んだその時、母親から贈られたのが「どんな不運に見舞われても、不幸になっちゃいけないよ」という言葉だったという。

津島さんの母は夫を若くして亡くし、女手ひとつで3人の子どもを育てた苦勞人である。人生のつらさ、苦しさがとことん身にしみついていて、娘の悲痛な姿を前にして、この言葉を伝えずにはいられなかった。寄稿文は『どのような不運のなかにも、私たち人間にとつて、不思議な希望はひそんでいるらしい』という言葉で結ばれていた。

「これは、元気をもらえる言葉だ」とこの一文に接した時に感じしつ、被災された方々も同じように思われたに違いないと思った。不運なんてものは、いつ訪れるかなんて判らない。みんなにも不運が訪れているに違いないが、みんながみんな不幸に思っているわけではない。

続いて、石井先生は布教活動の中で復興に向かつて生きている多くの人々と繋がり、その中から、津島さんの言葉を実践し、大きな不運に見舞われたけれど

も、不幸にならない生き方をしている人達を『被災地からの報告』として紹介した。

◆ある時、親しくお付き合いしている方から「石井さん、南相馬にすごい人が居るんですよ。被災地復興のリーダーになって活躍されている方で、東京などで復興会議などが行われると代表として参加されている方なんです。そのヤツオさんという方を知っているかい？」と聞かれた。「いや、ヤツオさんという名前は聞いたことがないですね」「いや、ヤツオは名字で、名前はハツオさんという方なんだよ」「なんだか名前が2つずついたみたいな方ですね」(なんていうエピソードに場内には笑いの声。)

「失ったものを数えない。残されたものを数える」そして「いま、ここ、じぶん」

八津尾さんに会ってみると真っ黒に日焼けして、逞しい体つき。とても62歳には見えない。お仕事は農業。震災当時ブロッコリー畑にいたという。真っ先に気になったのは家族の安否。

みんなの無事を祈り、一目散にわが家に戻った。自宅は瓦が数枚落ちただけで、建物に目立った被害はなかった。幸い家族に怪我はない。ほっと胸をなでおろす。元氣な孫の姿に思わず目を細めた。

その時、本家のお爺さんが海の方を見て叫んだ「来るぞ」つて。海岸に並んでいた松並木が、



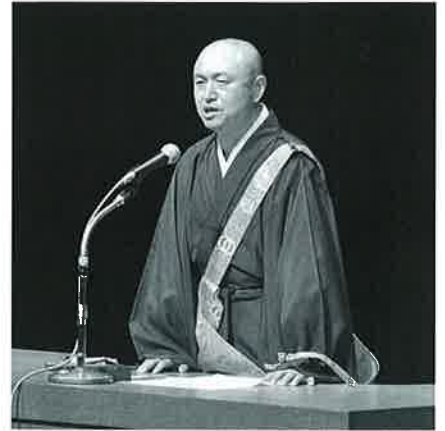
一瞬のうちに巨大な波に飲まれて消えた。初めて見る大津波。10メートル以上はある黒くにこった壁が迫ってくる。

今度は「逃げる」つて叫んだ。居合わせた一回で2台の車に分乗して逃げた。ハンドルをかたく握り、アクセルをおもいっきり踏む。運転しながら、初夫さんはバックミラーに何度も目をやった。奥さん：「^{かすこ}一子さんの車が映っている。俺の車には子ども

もたちと孫が乗っている。一子の車には本家のお爺さんとお婆さんが乗っている。「急げ」と叫ぶ。交差点でハンドルを切る。もう一度バックミラーをのぞく。

次の瞬間、言葉を失った。見えるのは波ばかり。妻の愛車はなかった。震災から2週間後、がれきの下から見慣れた白い車が発見された。一子さんと、一緒に乗っていた本家の老夫婦が帰らぬ人となった。家も土台を残して全部持って行かれ、畑も塩をかぶった。私は、持っている大切なものを全部無くしてしまった。

女房と始めたばかりの畑は猫の額ほどの広さだったが、県内有数の大規模農家にまでなった。もう一子はいないけれど宿題は残った。遠くから『私はもういないけれど、うちの農家大きく出来るよね』と声がした。家は流された。農機具も全部ない。しかし全国の仲間・友情が無くなったわけではない。「初夫！



俺の農機具使え。初夫！俺の苗を植えろ。初夫！俺の倉庫使えよ」とみんなが声をかけてくれた。今、畑と田んぼの除塩作業を済ませ、いろんな苗を植えている。塩をかぶった畑でも育つ苗があると希望を捨ててはいない。失ったものはあるけれど、残ったものもあるだろう。震災でみんなが下向いて落ち込んでいくところ、顔を上げて前を向いて歩んでいると人が集まってきて、今では多くの人が復興プロジェクトに携わっている。今、自分に残された女房からの宿題、自分を応援してくれる仲間の友情。そして塩をかぶつ

た農地でも何かができるのではないかという希望を胸に今頑張ろう。この自分が育った南相馬で、自分らしい生き方をしよう。それを実践しているのが八津尾初夫さん。『自分が失ったものを数えてはいない。自分に残されたものだけを数えてそこから出発しよう』と不運に見舞われても不幸にならない生き方を実践していることを八津尾初夫さんから教えられた。

「小さな幸せ探し」

◆浪江町に震災ですっかり元気を失ってしまったお婆さんが居る。お寺の住職がそのお檀家さんのお宅へ通って「小さな幸せ探し」をしましょうと話をしていくという。

当時は水が出なかった。今は水をザブザブ使える。温かいものが食べられなかった。今はどうですか？と問いかけているとのこと。「小さな幸せが積み重

なると大きな幸せになる。明日も頑張って生きてみようという気持ちにつながる」これも不幸にならない生き方のひとつです。

「ああ今日は佳い一日だった」

◆福島県福聚寺（妙心）住職で芥川賞作家の玄侑宗久さんがインタビューで「この大震災。被災地以外の人達は、今こそ自分の生き方考え方を見直しても良いのではないか。そうしないと、震災で亡くなった大勢の方がうかばれない」と語っているのを耳にした時、何を言いたかったのかすぐには理解できなかった。それを聞いた時に、あるエッセイストの「あなたがくだらないと思っている今日は、昨日亡くなった人が何としてでも生きてたかった今日なのです」という言葉を思いだした。望んで亡くなった方なんて一人も居ない。春3月の大地震、進学先や勤め先が決まって夢を



大きく膨らませていた若者。赤ん坊が生まれると楽しみにしていた夫婦、誰一人望んで亡くなった人なんて居ない。私達が生きていく一日は、大切な一日。生きるって何だろう。一日の終わりをどんな思いで締めくくりに出来るか「ああ今日は佳い一日だった」と思えることができれば不幸にはならない。もう一度よく考えてみませんかということをおぼろしく考えた。

「父さん、僕たちだけじゃないよ、みんな食べたいんだよね」

◆ボランティアの男性の手記より：電気が消えたコンビニに入

った時、丁度大量のパンがお店に届き、なにもなかった棚にパンが並んでいく。お店には自分以外、子ども連れの親子がいた。その親子は、今入荷したてのパンを3つだけ手に取りレジに向かった。その光景を見て「今、目の前の棚には沢山のパンがあるのに、何で3つしか持って行かないんだよ。俺なら3つだけじゃなくもつと沢山買うよ」と思ったその時、男の子の声があった「父さん、僕たちだけじゃないよ、みんな食べたいんだよね」って。その時「ここで俺がこのパン全部買ってしまつたら、パンを食べたいと思ってる人が口にできない。食べ物欲しいと思ってるのは俺だけじゃないのだ」という気持ちになった。

今回、被災地で暴動や略奪は起きていないことは誇れること。あの日常からはるかかけ離れた場面で『自分さえよければ』ではなかった。自分も大切だけど、

みんなの事も考えたという一例だと語った。

「心が変われば態度が変わる。態度が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。運命が変われば人生が変わる」

◆ある葬儀屋の社長さんのお話：火葬場で棺が釜に納まり、遺族が控室に入ると葬儀社のスタッフがおにぎりを配った。おにぎりを手にとった幼い女の子が、もらったおにぎりをほっぺにあてて「ママ、このおにぎり温かいよ！」って叫んだ。避難所では温かいおにぎりは食べられなかった。またある大人の人は涙をぼろぼろ流しながら塩にぎりをほおばった。帰り際、スタッフに「避難所の暮らしは辛いですけど、今日は元気をもらいました。ありがとうございます」と御礼を言っ

て帰って行ったそうだと。葬儀社の社長から「温かいまごころが元気を届けてくれる」と教えてもらった。あの幼い女の子が大人になった時、人から優しくされる嬉しさを感じた彼女が、そのことを覚えていて、彼女の周りに辛い思いをしている人が居たら、その人に優しくしてあげようって思うのだと想います。全国、海外から被災地にまごころを運んで頂いた。それによって被災地の皆さんに元気が生まれた。それを頼りに不幸にならない道を歩んでいくことは、被災地にとって大切なことだと思えます。

仏教の教えに「自分の心を変えよう」という考え方があ。被災地では、自分が変わらなければいけないと思ってる人が増えている。周りを変える事ができたら良い。例えば「住宅が沢山できて、放射線量が下がってくれたら良いな」でもそれは中々望めることではない。「周

りを変えるよりも、自分が変わった方が簡単にうまくいくことがある」だから、自分が変わらなければいけないという選択をして不幸にならない道を歩んでいる。まず、自分の心を変えることで、自分の人生を変えていこうと考えそれが不幸にならない一番の近道だと信じている人が多い。

握り拳で人を殴る事もできるけれど、拳を開いて困っている人に手を差しのべてあげることでもできる。口で悪口や文句を言うこともできるけれど、優しい言葉をかけてあげることもできる。心で人を憎む事もできるけれど、人を愛することもできる。大切な一日を送るにあたって、自分の幸せだけでなく、周りのために、今、この手、口、心で何ができるのかを考えて下さい。そして優しい心、あたたかいまごころを届けて下さい。そして被災地のことを忘れないで下さい。



石井祐聖師の講演に続き、「聲明と太鼓の響き」復興への祈り

《記念公演》



い、まだまだ苦しみは続いています。最後にお願いがあります。『今日、皆さんが自宅に帰ったら、就寝される前に小さな幸せ探しをして下さい。』「ああ、今日も一日佳い日だった。明日も佳い一日になると良いな」と想ってから灯りを消して下さい」

をテーマに公演が行われた。

1幕目 「聲明」

新井弘順師（所沢市・宝玉院・豊山）を導師として19名の真言宗豊山派僧侶により行われた。聲明は、仏典に節をつけてお唱えする伝統的な仏教音楽で、



日本の伝統音楽の源流とされている。演目は四智梵語、云何唄、散華、対揚、唱禮、表白、理趣經、大日讚。

先ず、法螺の音色が場内に響



き渡り、客席後方から職衆が通路を通り、「四智梵語」をお唱えしながら入場した。職衆が舞台に上がり終わると「云何唄」が唱えられ、会場内は厳肅な雰囲気にも包まれ、まるでお寺の本堂にいるかのように感じられた。参加者の中には、眼を閉じて、合掌しながら心静かに聞き入っている姿があった。悟りの象徴とされる華を道場に散らす「散華」が始まると、舞台では、僧侶達によって散らされた華や、

舞台天井から舞い降りる華が照明に照らされながら、優雅にひらひらと舞い、観客の目を引いた。観客の中には、散らされた華を拾い喜んでる姿も見られた。その後、「対揚」をお唱えしつつ礼拝が繰り返され、「唱禮」が重々しく唱えられた。導師によって被災地復興への「表白」が唱えられると会場全体がより厳かな雰囲気となり、皆がひとつとなつて供養を行つていくような感覚が得られた。続いて客席中通路までゆつくりと行道で歩きながら流麗に「理趣経」が唱えられた。「理趣経」が終わると、法螺が再び吹かれ、僧侶達は「大日讃」をお唱えしながら舞台を退場。1時間を超える声明の公演が終わり、会場には大きな拍手が鳴り響いた。

2 幕目 「太鼓演奏」

張り詰めた空気の中、太鼓奏者の上田秀一郎氏によるソロ演奏から始まった。最初の演目は、東日本震災に被災した子供たちとのワークショップから発想を得て創られた新曲「光の道標」。拳で太鼓を打ち始め、途中からバチに変わり、場内に響き渡る音に迫力が増し勇壮感に満ち溢れる12分もの演奏。



2 曲目は「六大響」。真言宗豊山派僧侶が左右に3人ずつ壇上に上がり、上田氏を中心にして共演。宇宙を構成しているとされる地・水・火・風・空の五つの五大要素を『体』そこに『心』の一大を加えて六大。体と心を響

かせるという意味の六大響。7人の太鼓の音が合わさり、まるで1つの音のように聞こえリズムカルでダイナミックな太鼓の響きに参加者の意識が1つにまとまったようにも感じた。



最後に声明を唱えた職衆が再び壇上に集まり、太鼓との共演で般若心経をお唱えして公演は終わった。

最後に聲明を唱えた職衆が再び壇上に集まり、太鼓との共演で般若心経をお唱えして公演は終わった。

閉会行事で、入間東部仏教会会長の石渡隆幸師から「声明の荘厳な声の響きによって、皆さ



県佛大会義捐福祉募金報告



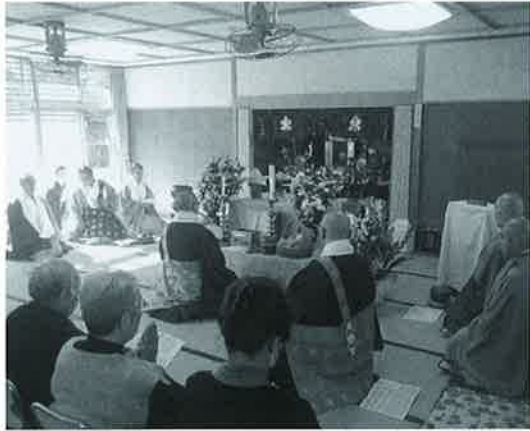
大会当日、参加の皆さまからお預かりした義捐福祉募金の合計金額は、100万円になった。後日、大会実行委員長の木村盛雄師が主管支部を代表して、所沢市役所を訪問し、県佛大会義捐金として寄附を行った。11月28日(水)、所沢市役所福祉総務課から、御礼の報告があった。

支部だより

尚和園慰霊法要

浦和仏教会
埼玉県佛教青年会

平成24年11月15日(木)、さいたま市緑区の養護老人ホーム尚和園において、浦和仏教会(鎌田亮宣会長)・埼玉県佛教青年会(関口亮樹会長)が合同で物



故者慰霊法要を厳修した。出席者は10名。

法要は鎌田浦和仏教会長を導師に執り行われ、同施設の入居者も参加し焼香、読経を行った。法要後には、鎌田会長が観音経について法話を行った。堀江敏雄尚和園園長のご挨拶の後、最後に敷地内にある納骨堂の前にて般若心経をお唱えして終了した。(報告・浦和仏教会事務局)

第18回仏教講演

東松山滑川仏教会

東松山滑川仏教会は、平成24年11月30日に東松山市市民文化センター(1200名収容)で仏教講演会を開催した。

第18回を数えるこの催しは、第1部として開会式典を担当宗派の法式で執り行い、続く第2部

では担当宗派ゆかりの講師を招いての講演会という構成である。

第1部では、日蓮宗橘雅友会による『雅楽の調べ』が行われ、雅楽と仏教の謂れを分かり易く説明するとともに、鳳笙・篳篥・龍笛の解説と演奏が披露され、来場者は心と耳に至福の時を送った。

開会式典は、古山祥道師(日蓮宗・妙賢寺)を導師として各宗派の代表が登壇し、楽座に橘雅友会、式衆には立正大学にて行学二道に励む学僧 日蓮宗立堀之内学寮生も出席して釈尊成道会音楽法要が厳修された。

第2部は『祖父 宮沢清六に聞いた「兄 宮沢賢治」と題して林風舎代表 宮沢和樹氏が講演を行った。和樹氏は、作家「宮沢賢治」を親しみを込めて「賢治さん」と呼び、静かな微笑を絶やすことなく穏やかな口調で語った。講演中には、来場者か



らの質問も受け付け、素顔の「賢治さん」を感じることが出来た。またこの講演会の特色の一つに、参加費の一部を交通遺児援護金として寄贈することが挙げられる。当日も、上田清司埼玉県知事からの感謝状が授与された。この日の来場者には、協賛業社からのお茶や記念絵馬、日蓮宗オリジナルポケットティッシュもプレゼントされ盛況裡に終了した。

今回の参加者の中には、東京都や千葉・神奈川県など県外か

ら多くの申し込みがあったことが特徴的であった。また、初めて参加した方の中には、毎年各宗派の法要式に参列できないことに驚き、ぜひ次回からも参加したいので案内を頂戴できないか、という問い合わせもあった。同日に行われた慰労会では講師の宮沢和樹氏を囲み、会員寺院やスタッフとして協力した若手僧侶・協賛業社との交流がはかられ、会の充実発展と次回への団結と更に力強く実施することが確認された。

(報告・東松山・滑川支部
村井惇匡)

川越仏教講座

川越市佛教会

平成24年12月1日(土)、川越市連雀町・蓮馨寺(浄土宗)を

会処に、川越市佛教会(米山知行会長)主催「成道会記念 川越仏教講座」が開催されました。当日は、午前中に霽まじりの雨が降るほどの寒さにもかかわらず、100名を超える方々のご参加をいただくことができました。午後1時30分より先ず、成道会法要を会処寺住職、蓮馨寺・糸原恒久上人御導師のもと、川越市佛教会会員ご寺院様10ヶ寺の宗派を超えたご随喜をいただきながら厳修いたしました。

引き続き記念法話として、埼玉県佛教会長であります萩野映明老師に「今を生きる」と題してご法話をいただきました。萩野老師は会場全体を笑いに包み込みながら、「苦しみ、悲しみの中から『本物』に出会っていく生活を大切にして欲しい。それこそ『今を生きる』ことの醍醐味ではないだろうか」と熱く語って下さいました。あつと言



う間の1時間、聴衆の方々にも「手を合わす、あなたの心に仏様」というメッセージが伝わったのではないでしょうか。さらに休憩を挟んで、地元川越市在住の女優さんであります、谷英美さん(『アローン・シアター』主宰)に「金子みすゞの世界」と題し、詩の朗読とお話を演じていただきました。女優さんらしい美しい語り口にて金子みすゞの詩をご紹介いただくと同時に、その詩を生み出した金子みすゞの歩んだ人生をお話し

ただき、私たちが自らの人生を
問い直す手がかりをいただく尊
いご縁を賜ることができました。

最後になりましたが、お忙し
い中、お時間を作っていただき
川越にてのご法話を下さった萩
野映明老師、またスケジュール
を調整して限られた時間の中
での上演をお引き受け下さった女
優の谷英美さん、さらにはこの
川越仏教講座開催にあたり格別
なるご尽力を下さいました多く
のご支援者皆様に深く感謝申し
上げつつ、ここに本年も盛会の
うちに仏教講座が円成いたしま
したことをご報告いたします。

(報告・川越市佛教会事務局)

前号の修正とお詫び

▼11頁3段

・中澤幸雄師のご遷化報告

×78歳 ↓ ○100歳

関係各位には、大変ご迷惑をお
かけして申し訳ございませんでし
た。深くお詫び申し上げます。

ト
ピ
ッ
ク
ス

「共同募金会

歳末助け合い募金協力」

平成24年12月5日(水)、埼玉佛
教会館にて、共同募金会への歳末
助け合い募金を行った。50万円
を更生保護施設清心寮に指定寄
附、10万円を歳末助け合い募金
とした。



東松山・嵐山

現地学習会

「埼玉同宗連」



平成24年10月22日(月)、東松
山岩殿観音正法寺をはじめとし
て、第36回研修会の講演内容の
武州鼻緒騒動に関連した「埼玉
同宗連」現地学習会が実施され
た。参加者は14名。講師は研修
会に引き続き、鼻緒騒動研究会
会長の間々田和夫先生を招き実

施した。正法寺仁王門前にて、
先ず、備前島賢光副議長による
開会挨拶。続いて正法寺ご住職
の中嶋政海師からご挨拶を頂い
た。その後、間々田先生によつ
て正法寺や門前町、坂東三十三
観音霊場の歴史が説明された。
事件の発端となった天水鉢は幅
1.1メートル高さ1.1〜1.2メートルで、約500名の
長吏の寄進によって造られたそ
うだが、太平洋戦争の時に金属
供出で無くなってしまったとの
こと。観音堂の前には現在台座
のみが残されており、196名の刻
銘がある。観音堂の前にこの天
水鉢を置くことは、当時檀家等
に相当非難されたのではないか
とのことであった。

続いて嵐山町にある向徳寺へ
車で移動。鎌倉時代の板碑を前
にして、間々田先生より鎌倉街
道や古戦場について説明がなさ
れた。騒動に参加した98人が江
戸に護送された行列が、6キロに
及んだという話には驚きの声か
あがった。

次に、旧鎌倉街道の笛吹峠を
通って「越長騒動記」を所蔵し
ている鳩山町の根岸家へ移動。

リビングにて約170年前の写本を
直接見せていただきながら、お
話しいただいた。「越長騒動記」

には、観音堂の前に汚れた身分
の者が天水鉢を奉納したことか
らこの騒動が起きたとする記載

があり、当時の人々の考えを垣
間見ることができた。この写本
は現存する最古の良質な史料で、

長吏側に捕まった人々の名簿、
江戸に護送された人々の名簿な
どもあり、その名簿の中には天

水鉢台座に刻銘された名前も載
っていた。また、根岸家は元々
熊井焼の窯元でもあったとのこ

とで、町指定文化財である大徳
利と徳利も見せていただいた。

最後に、越生町の街並みを見
学。140年前の一揆の際に打ち壊
しにあった家屋が何軒か当時の

まま残っており、柱に残った傷
などを見せていただくことができ
た。閉会行事で、牧野大俊副



議長より、間々田和夫先生への
謝辞と、無事行程を終了できた
ことへの感謝が述べられて今回
の現地学習会は終了した。

(報告・本間)

部落解放第32回

埼玉県研究集会研修会

「埼玉同宗連」

平成24年11月16日(金)、羽生
市産業文化ホールで「世界の人

びとと共に人権運動の輪を広げ、
平和と人権の21世紀を創造しよ
う」を集会テーマに開催された。

基調報告では「日本における人
権の現状と課題」が提起された。

また映画「武州鼻緒騒動」が上
映され、映画監督の金聖雄さん
が「映画武州鼻緒騒動制作にか

かわって」の特別報告をした。
午後は7つの分科会に分かれ、
第5分科会の「地域・職場・教

団の人権啓発活動」に参加した。
河邊良幸師(熊谷市・圓照寺・
天台)から「天台宗の人権啓発
活動」が報告された。



関連団体・訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。

11月10日

◇「埼玉県佛教保育協会」

・元会長／現顧問

小松原 優 先生(享年99歳)

小松原幼稚園

12月3日

◇「埼玉県宗教連盟」



・現副理事長

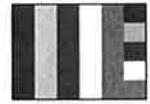
ワレ・ジャン神父(享年79歳)

カトリック川越教会





ZENBU TSU
金・仏・だより



税務調査等の対応にご留意！

宗教法人等の税務調査の厳格化や帳簿書類整備の必要性 ～適正な申告や帳簿書類の整備が要求されます～

国税通則法の改正（平成25年1月1日以降施行）による税務調査権の明確化（全国一律の統一化・成文化）と罰則による強化

国税通則法の改正内容

- ・事前通知（納税者、納税代理人）
※但し、非違が疑われる場合は、事前通知することなく質問検査が行われる。
- ・質問回答、帳簿書類の提示、提出、留置（罰則あり）
- ・取引先等の反面調査
- ・調査結果説明
- ・更正、決定の通知
- ・再調査 など

適正な申告をしましょう

- ・給与、謝礼、日当などに対する源泉所得税
- ・お布施、賽銭、塔婆代、お車代、御膳料、付け届け等の収入・所得計上など

帳簿書類の整備をしましょう

- ・財産目録、収支計算書（経常収入年間8000万円超の法人、及び公益事業以外の事業を行っている法人、収支計算書を作成している法人）、事務処理簿、補助簿など（規則、役員名簿、責任役員会等の議事録等）
- ・檀信徒名簿の個人情報、宗教法人法第84条に準拠し、調査官の意図や内容を吟味した上で、慎重に対処しましょう
- ・過去帳は、人権擁護の立場から非開示を含め、慎重に対処しましょう

以上の点について、税理士、弁護士などを招へいして勉強会をしましょう

税務署からの「お尋ね」（任意回答文書）の送付についてご注意を

お布施、賽銭、お守り等の収入状況、宗教活動以外の収支状況、預貯金や不動産の状況、備付書類等の状況、給与（住職・寺族、使用人）の支給状況などについて回答を求めた文書です。

「お尋ね」（任意回答文書）に回答するかしないかは全くの自由です。地域仏教会単位で税務署に対応しましょう。＊詳しくは、公益財団法人全日本仏教会にお問い合わせください。



公益財団法人
全日本仏教会
WFB (世界仏教徒連盟) 日本センター

〒105-0011
東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2F
電話 03-3437-9275 FAX 03-3437-3260
http://www.jbf.ne.jp/
E-mail info@jbf.ne.jp

謹賀新年

本年もよろしく

お願い申し上げます



合掌

(財)埼玉県佛教会 会長

(公財)全日本仏教会 副会長

曹洞宗 能仁寺 住職

萩野映明

〒357-0063 飯能市飯能一三二二九

電話 ○四二一九七三四二二八

FAX ○四二一九七四一五三四六

<http://noninji.com>

(財)埼玉県佛教会 専務理事
水光山大應寺 住職

深谷雅良

〒354-0011 埼玉県富士見市水子一、七六五

TEL ○四九一二五一五六一一

FAX ○四九一二五一五六一一

(財)埼玉県佛教会 常務理事
日蓮宗 妙福寺

住職 穂山教雄

〒346-0115 久喜市菖蒲町小林三三八九

電話 ○四八〇一八五一四二三

(財)埼玉県佛教会 常務理事
蓮馨寺 住職

糸原恒久

〒350-0066 川越市連雀町七一

TEL ○四九一三二一〇〇四三

FAX ○四九一三二一〇〇六七六

天台宗 東泉寺 住職
天台宗 埼玉教区議会 議長
(財)埼玉県佛教会 理事

河野亮玄

〒330-0044 さいたま市浦和区瀬ヶ崎二一五一三

TEL ○四八一八八六一五一四

FAX ○四八一八八六一四一五一

HP <http://www.urawa-tosenji.com/>

〒330-0051
さいたま市浦和区本太一四二一一

天台宗 延命寺

住職 河野亮仙

電話 ○四八八 八八二一六三九〇

FAX ○四八八 八八五二三六六六

<http://www.enmeiji.com>

(財)埼玉県佛教会 副会長
真言宗豊山派 持明院住職

木村盛雄

〒359-0038 所沢市北秋津八五

電話 ○四二九九二一四四六

(財)埼玉県佛教会 常務理事

加藤玄静

(城立寺住職)

(財)埼玉県佛教会理事
真宗大谷派了善寺

住職 嵩海雄

(財)埼玉県佛教会 副会長
真言宗智山派 三学院住職

倉持秀裕

〒335-0001 蕨市北町3-2-14

電話 048-443-2125

FAX 048-443-2544

(財)埼玉県佛教会 常務理事
自坊 観音寺 (真言宗豊山派)

杉村良哉

〒340-0816 八潮市中央四一八一〇

TEL ○四八一九九六一四四五〇

FAX ○四八一九九六一四四五〇

檀林 勝願寺

住職 藤田得三

〒三六五-〇〇三八

鴻巣市本町八一-二-三二

電話 ○四八(五四二)〇二二七

高野山真言宗真弘寺

常照 本間照康
住職 本間照康
副住職 本間照康

〒336-0021

さいたま市南区別所 2-7-12

TEL/FAX 048-861-1219

E-mail: shinkoji@jcom.home.ne.jp

<http://members.jcom.home.ne.jp/shinkoji/>

埼玉県佛教青年会会長
天台宗 慶福寺 住職

関口亮樹

〒349-0115 蓮田市蓮田四一〇四

電話 ○四八(七六八)一五三七

FAX ○四八(七六八)一二二八

賀春 合掌

草加市仏教会

会長 丹羽尊照
事務局長 帙溪文有

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。

平成24年3月

24日 春日部市満蔵院(豊山)

山崎 祐弘 師(87歳)

9月

27日 熊谷市長慶寺(高野)

柴崎 弘正 師(88歳)

27日 深谷市皎心寺(曹洞)

朝稲 龍司 師(71歳)

10月

23日 春日部市蓮花院(豊山)

金久保 真澄 師(54歳)

11月

8日 寄居町長福寺(高野)

丸山 一榮 師(88歳)

事務局日誌

10月

24日▼「全仏婦」第59回大会・追悼法要(萩野会長)

25日▼第34回埼玉県佛教徒大会

第6回運営委員会(所沢ミューズ)

26日▼解放同盟人権政策フォーラム(浦和あけぼのビル)

30日▼解放同盟狭山事件市民集会(日比谷野外音楽堂)

11月

5日▼「埼玉青」写仏

7日▼第34回埼玉県佛教徒大会(所沢ミューズ)

16日▼解放同盟埼玉県研究集会(羽生市産業文化ホール)

22日▼南部地区支部長会

12月

1日▼成道会記念川越仏教講座

4日▼埼玉青「写仏」

5日▼第2回執行部会

28日▼仕事納め

今後の予定

平成25年1月

9日▼県連旗開き(解放同盟/熊谷ガーデンパレス)

17日▼「埼玉連」新年懇親会

23日▼「埼玉保」埼玉県佛教幼児画展準備会

24日▼新年懇親会

25日▼「埼玉保」新年懇親会

26日▼「埼玉保」第28回埼玉県佛教幼児画展(27日)

31日▼「埼玉同宗連」新年懇親会

編集後記

年末年始になるとアレもコレもと気持ちだけが先走り、心が落ち着かないのは私だけでしょうか? 『心にゆとりがない時ほど色々な災いがふりかかる』と言われていますので注意が必要です。この忙しい時節を元気に乗り切るためには、やはりいつも以上に自己管理が大切だと思いますので、みなさまもお気をつけてください。(鯉)

第28回埼玉県佛教幼児画展

平成25年1月26日(土) 13~17時
平成25年1月27日(日) 10~16時



※入場自由

場所 さいたま市文化センター・展示室
南区根岸1-7-1